

☆ご自由にお持ちください☆



Wilhelm・Conrad・Röntgen  
ヴィルヘルム・コンラート・レントゲン  
1895年 X線発見

# 放射線だより

2022年11月  
No.4 (隔月発行)  
担当：馬場俊明

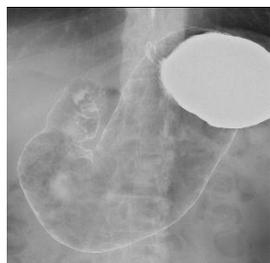
from Radiation House

胃バリウム検査は、正式には上部消化管造影検査と言います。食道・胃・十二指腸の病変をチェックするための検査です。胃・食道・十二指腸のがん疾患のほか、胃潰瘍や胃炎、ポリープなどを早期発見することが目的です。

体を回転させ胃の粘膜にバリウムを付着させることで胃の粘膜の状態を観察することができます。また、上部消化管造影検査では、通常のレントゲン写真と異なり、X線を連続して照射しながら行います。バリウムが口から食道、胃、十二指腸へと流れていく様子を動画で見ることができます。



## 主な症例



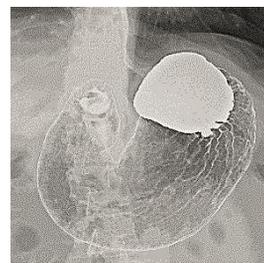
正常胃



びらん



早期癌



慢性胃炎

## ●検査を受ける前に知っておきたいこと●

### ・バリウムが飲みにくい

胃の粘膜に付着させることが目的であるため、ドロドロしており粘度が高くなっています。味のついていないものを口にすると胃酸が分泌されます。胃酸が多いとバリウムが粘膜に付着しづらくなってしまいます。また、胃の動きも活発になってしまうため、ゲップが出やすくなってしまいます。そのため、バリウムには味がついていません。

### ・ゲップを我慢するのはなぜ

発泡剤(炭酸ガス)により胃を膨らませて検査を行います。膨らませることで、胃粘膜のひだを伸ばして観察しやすくします。空気が抜けてしまうと病変の発見が難しくなってしまうため、検査中に空気が足りていないと判断した際には発泡剤を追加で飲んでいただくことがあります。

### ・バリウムがしっかり排出されるのか

バリウムは体内に吸収されることなく、便として排出されます。検査後は、バリウムをなるべく早く体外へ出すために下剤を飲みます。また、こまめに水分を摂るようにしてください。ただし、アルコールやコーヒーなどの利尿作用のあるものは避けてください。バリウムが排出されにくくなります。



検査の際は放射線技師からの指示に合わせて体の向きを変えていただきますので、ご協力よろしくお願いたします。途中気分が悪くなったり、体位変換での困難などある場合は遠慮なくおっしゃってください。(文責:御厨)

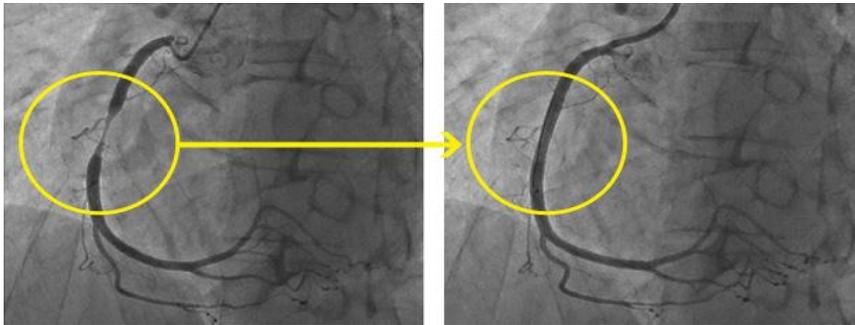
# 心臓カテーテル検査について

心臓カテーテル検査とは、カテーテルと呼ばれる医療用の細い管を腕や足の血管から挿入し、心臓まで到達させることで心臓や冠動脈などの血管の様子を造影剤と呼ばれる薬剤を使用して撮影したり、心臓内部の圧を測定したりする検査のことです。

## 主な心臓カテーテル検査の治療について

### ①経皮的冠動脈形成術 (PCI)

動脈硬化で狭窄あるいは閉塞している心臓の冠動脈の狭くなった部分を風船やステントという金網状の管など様々な治療器具を使い血液のスムーズな流れを取り戻すことが目的となります。



### ②経皮的心筋焼灼術 (カテーテルアブレーション: ABL)

カテーテルアブレーションとは、不整脈発生部位である肺静脈からの異常な電気信号を遮断する治療法です。従来から行われている高周波アブレーションと、新しい治療法であるクライオ(冷凍)アブレーションがあります。

